☺「福岡市　子どもと本の日」通信　Ｎｏ．１５５　　平成３０年２月２３日

❀　毎月２３日は「福岡市 子どもと本の日」です　❀

～　子どもの読書活動を推進しましょう　～

□　笑顔あふれたＴＲＰＧ大会の報告です

（講師の先生の話）

１月９日（火）に，第１回生徒交流会でＴＲＰＧ大会が，博多工業高校の図書館を会場にしてありました。

ＴＲＰＧは，テーブルトーク・ロールプレイング・ゲームの略で，物語を進めるシナリオとルールブックをもとに，ゲーム機などを使わずに，紙や鉛筆，サイコロなどの道具と参加者同志の会話のみを用います。そして，自分が設定したキャラクターを使って，空想上の世界を舞台にした物語の謎を解き，課題を解決していく対話型のゲームです。

参加者は，博多工業高校，大濠高校，福岡女子高校の計４４名の高校生，見学者は，中学校や高校の先生，図書館の司書など１７名，講師は，熊本の元公立図書館司書の高倉暁大氏などでした。また，会場を準備したり，司会をしたりして運営をしていたのが，博多工業高校の生徒でした。

（書き直したシナリオでゲームを進めるキーパー）

大会は，１つのグループ５名で７つのグループに分かれました。そして，架空の神話小説である「クトゥルフ神話」のゲームをするグループと「犯人は踊る」などのカードゲームをするグループに分かれて行いました。

「クトゥルフ神話」は，５名のうち１名がゲームを進めるキーパー，残りの４名がプレイヤーとなりました。ゴールはグループごとに違い，宝物を探すグループ，迷路から脱出するグループなどありました。まず，キーパーが，ゲームのあらすじをプレイヤーに知らせました。プレイヤーは，自分の分身となるキャラクターを作り，キャラクターの持つ力や武器の種類などの設定をしました。

（テーブルの上に本を広げゲームを進めるプレイヤー）

（本で調べるプレイヤー）

（進む道を相談するプレイヤー）

ゲームでは，ゴールするまでにいろいろな課題に遭遇しました。課題は，複数ある道から進む道を選択したり，怪物が出現して進路をふさいだり，謎を解かなければいけなかったりしました。いろいろな課題に出会うたびに，同じグループのプレイヤーと相談したり，本で解決策などを調べたり，一緒に戦ったりしました。時には，サイコロを振って出た数によって課題を解決しました。どのグループも真剣に取り組み，時には笑い

声が聞こえていました。博多工業高校のキーパーは，冬休みの間，市販のシナリオを全部書き直して，参加者がもっと楽しめるようにしたと，話していました。

カードゲームは，「犯人は踊る」だけでなく，「のびのびＴＲＰＧ」など数種類が準備してありました。

（15　The　FIFTEEN」のゲームをアドバイスする博多工業生）

（「のびのびＴＲＰＧ」などのゲームをする高校生）

「犯人は踊る」というカードゲームは，１１種類のカードの種類の中から「犯人」というカードを持った人を当てるゲームでした。そのために，「目撃者」や「情報交換」といった役割の違うカードがありました。例えば，「情報交換」のカードは，自分の手札から１枚を左横の人に渡さなければならないカードでした。「情報交換」でもらったカードを見て，生徒たちは，喜んだり，がっかりしたりと，とても楽しそうでした。

（カードゲームを体験する見学者の司書や先生にアドバイスをする博多工業生）

（「犯人は踊る」のカード）

（最後に記念撮影）

このＴＲＰＧ大会では，始めから最後まで参加した生徒の笑顔が絶えませんでした。生徒は，お互い初対面だったにもかかわらず，前から友達のような感じで会話を交わしていました。また，ゲームのシナリオを書いたり，登場人物の設定などをしたりするために本を活用していました。さらに，ゲームの途中でも，課題を解決するために本を使っていました。そこで，このＴＲＰＧは，本の活用を促すとともに，コミュニケーション能力を培うようになる効果がよく分かりました。そして，「図書館に今まで来たことがなかった子どもたちにも図書館に足を運ばせる。」という利用者を増やす効果があることもよく分かりました。今後の図書館活用の一つの方策ではないかと思いました。

（ＴＲＰＧの説明）

（ＴＲＰＧに関連した書籍や資料の展示）

Ｈｅｌｌｏ！ 学校図書館

今年度も，福岡市内の小中学校，特別支援学校を訪問し，図書館の様子などを紹介していきます。学校の図書館の運営や環境づくりなどの参考になればと思います。

《西戸崎小学校》

西戸崎小学校は，１６学級４５７名の学校です。図書館は，本館と廊下でつながったプレハブの建物ですが，プレハブと感じさせず図書館に入りたくなるような環境づくりをしています。掲示板には，詩や読書の楽しみを書いた掲示物を貼り，子どもたちに本の大切さが分かるような工夫しています。また，図書館の名前を募集するなど，子どもたちが図書館や本に関心を持つような取り組みをしている素晴らしい図書館です。

○　図書館に入りたくなるような環境づくり

図書館の窓の下と出入口のそばの窓に掲示物を貼り，図書館に入りたくなるような雰囲気をつくっています。

（図書館前の廊下）

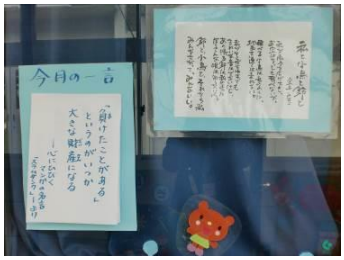
（出入口そばの窓に貼られた掲示物）

（窓の下に．詩の掲示物）

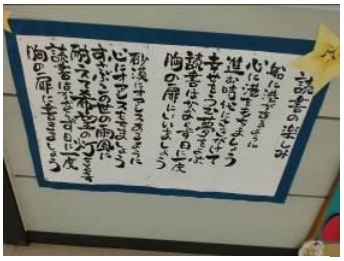
（「ようこそ図書館へ」の下に季節に合った掲示物）

○　本の大切さが分かるような掲示物の工夫

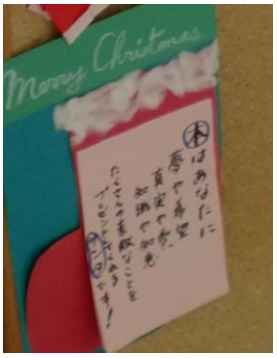
「今月の一言」には，マンガ（スラムダンク）の名言，「読書の楽しみ」の詩には，「船に港があるように　心に港をもちましょう・・・」と掲示して，子どもたちに本の大切さが分かるような掲示物の工夫をしています。



（「今月の一言」と「金子みすゞ」の詩の掲示物）



（「読書の楽しみ」という詩が書かれた掲示物）



（今月の詩「本はあなたに夢や希望．真実や愛・・」と書かれた掲示物）

（図書館の窓に「本は心のビタミン」と書かれた掲示物）

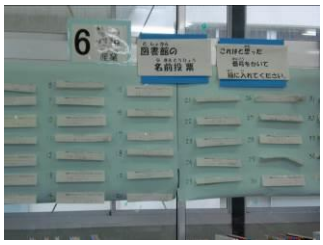
（図書館の書架の上に．「今月の詩」の掲示物）

○ 図書館や本への関心を高める工夫

図書館には，集まった名前を貼った模造紙が掲示され，投票する箱が置いてあります。また，映画になった本などを集め表紙を見せた配架をしたり，地域に関係する本を集めたコーナーを設けたりして，図書館や本への関心を高める工夫をしています。

※図書館に名前がついていなかったため，図書館の名前を募集し，集まった名前の中から投票して決めるようにしています。

（「図書委員からのおすすめの本」をＰＯＰで紹介）



（集まった名前が貼られている模造紙）

（名前を投票する投票箱）

（先生方がすすめる「おすすめの本」の紹介文と本を一緒に配架）

（地域に関係する本を集めたコーナー）

（その時期に合う本や映画になった本を集め，本の表紙が見えるように配架）

♪ 福岡アジア美術館「３月の案内」 ＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

＊アジアの絵本と紙芝居の読み聞かせ：

１１日（日），１３日（火），２５日(日)，　２７日（火）

・**時　間**:１１:３０～１２：００　　１３：００～１３：３０

・**場　所**:７階「キッズコーナー」（申し込み不要）

♪ 福岡市総合図書館「3月の案内」 ＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

＊毎月のお話し会

３日（土），　４日（日），１７日（土），１８日（日）

２４日（土），２５日（日），３１日（土）

・**時　間**:土曜：１４：３０～（幼児向け～小学生向け）

日曜：１４：３０～（幼児向け），１５：１５～（小学生向け）

・**場　所**:「こども図書館　おはなしの家」

３月生まれの文学者たち

角田　光代（かくた みつよ）と「八日目の蝉」

１９６７年３月８日神奈川県横浜市 生まれ

角田氏は，幼稚園の時，他の子どもよりも体が小さく，上手に話すこともできませんでした。そのため，周りからおかしい子どもと思われていることが角田氏のコンプレックスでした。また，友だちの輪に入れず，字が読めなかったので，絵本ばかり見ていました。このようなことが角田氏を作家に導く素地になり，小学校１年生では，将来作家になりたいと思うようになりました。特に，小学校の１・２年生で国語を担当した先生は，角田氏が書いたものをきちんと読んでコメントを書いてくれました。そのため，角田氏は楽しく文章を書いていました。

早稲田大学文学部在学中に「彩河杏」名義で書いた「お子様ランチ・ロックソース」でコバルト・ノベル大賞を受賞し，大学を卒業した翌年，「幸福な遊戯」で「角田光代」として小説家デビューをしました。

角田氏は，不倫相手の赤ん坊を誘拐した女性の逃亡劇と誘拐された少女のその後を描いた長編小説「八日目の蝉」を通して「母性とは何かを考えたかった」と語っています。この作品は，中央公論文芸賞を受賞し映画化されたり，テレビ放映されたりしました。

角田氏は，「対岸の彼女」で直木賞を受賞したのをはじめ，数々の文学賞を受賞し，多くの作品が映画化やテレビドラマ化されています。また，川端康成文学賞や松本清張賞などの選考委員を務めています。

佐藤　賢一（さとう けんいち）と「女信長」

１９６８年３月１２日山形県鶴岡市生まれ

佐藤氏は，山形大学教育学部を卒業後、東北大学大学院文学研究科で西洋史を専攻し，修士課程を修了しました。そして，フランス文学専攻博士課程に進みました。在学中に書いた「ジャガーになった男」で小説すばる新人賞受賞して，小説家デビューをしました。そのため，佐藤氏は，将来研究者と小説家のどちらになるかを迷った末，１９９８年に※博士課程取得満期退学をし，小説家の道を選びました。

「女信長」は，２００５年に毎日新聞の連載小説として日本の戦国時代を舞台にした，佐藤氏が初めて日本史に挑戦した歴史小説です。織田信長が実は女だったとしたら？という奇想天外な設定を取り入れつつも，史実もたくみに生かして読者を楽しませる作品です。黒木メイサ主演で舞台化，天海祐希主演でテレビ放映されています。

佐藤氏の作品は，歴史学で博士課程を満期退学した経歴を生かし，フランス語の史料も駆使して緻密に時代背景を描写する作風です。作品は，直木賞を受賞した「王妃の離婚」をはじめ，「傭兵ピエール」「小説フランス革命」などがあります。 佐藤氏の書く多くの歴史小説は，主に中世から近世にかけてのヨーロッパを舞台としたものです。史実をもとにしながら，奇想天外なストーリー，登場人物たちの濃厚な性格描写などで知られる西洋史をテーマとした歴史小説家の第一人者です。

※博士課程取得満期退学

日本の人文・社会科学系の大学院博士課程において，論文審査以外の単位取得を終えても課程博士号をほとんど付与しない慣行が戦後長くあったことを前提に，単位取得を終えた課程博士号に準じるものとして，一般的に使われている学歴の表記です。「○○大学大学院○○研究科博士課程単位取得満期退学」などと表記します。

□　図　書　館　員　の　ひ　み　つ　の　本　棚　《 No.１４２ 》

福岡市総合図書館 読書相談員の重村さやかさんが，毎月素敵な本を紹介してくださる楽しみなコーナーです。

今回は，「手話」の本です。実際に手話をやってみることで，言葉以外にも自分の意思を伝える手段があること，そして，自分の意思を相手に分かりやすく伝えるためには，表情や動作も大切だということに改めて気づかされます。また，動物がどのようにしてコミュニケーションをしているかなど，いろいろ話題が広がります。親子で読んで，体験してほしい一冊です。

❀ 今月の本

『てではなそう①　てではなそう「すき」と「なりたい」』

さとう　けいこ／さく　さわだ　としき／え　柏書房　2003 年　1296 円

♪ あとがき　＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

立春を過ぎても，吹く風はまだまだ冷たいのですが，道端の草花は，少しずつ春の訪れを感じさせます。植物図鑑を片手に，どんな草花が芽を出しているのか，さがしてはどうでしょうか。

さて，ＴＲＰＧを実施している福岡市内の学校を，私は今まで聞いたことがありませんでした。博多工業高校のＴＲＰＧ大会で，初対面の高校生同士が楽しく話し合っている姿から，ＴＲＰＧは，「コミュミケーションが不得手な子どもたちにとっても，自然に他の人とのコミュニケーションを取ることができるツールだ。」ということ，また，「学校図書館で，子どもたちが図書館に来たくなるような企画の一つとして使える。」と思いました。きっと，ＴＲＰＧは，福岡市内でも広がってくると思いました。

この通信ではできるだけ色々な学校の読書活動例を紹介したいと思っています。

発　行：　福岡市教育委員会　生涯学習課
電　話：　７１１－４６５５　　ＦＡＸ：　７３３－５５３８

図書館員のひみつの本棚　第１４２回

今月は、「手話」の本のご紹介です。

『てではなそう①　てではなそう「すき」と「なりたい」』

さとう　けいこ／さく　さわだ　としき／え　柏書房　2003 年　1296 円

＜お勧め年齢＞

乳幼児－－　　低学年☆☆　　中学年☆☆　　高学年☆☆　　中学生☆

高　校－－　　一　般－－

（☆が多い年齢の子どもにお勧めです。）

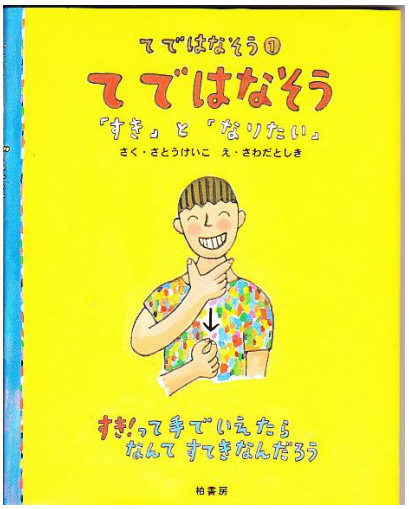
〈本の紹介〉

この本では、手話で「すき」と「なりたい」という気持ちを伝えるやり方を、シンプルなイラストで教えてくれます。「おかあさんが　すき」「らいおんに　なりたい」。「すき」も「なりたい」もじつはとても簡単な動きで伝えることができるのです。ぜひ、この本のページを開いて、イラストを見ながら実際にやってみてください。きっと楽しくなってきます。

「手話」は耳の不自由な人とも話せるし、道路の向こう側の人とも話せる、とってもユニークで楽しいコミュニケーションです。難しく考えずに、さぁ、「てではなそう」！

〈子どもに手渡す時のポイント〉

「手話」というと、「福祉」という観点から捉えられがちですが、この本は「手話」を、耳の不自由な人たちの特別なものではなく、気軽に楽しめるコミュニケーションの一つとして私たちに伝えてくれます。知識としての「手話」ではなく、人と人がつながるための「手話」の本です。ぜひ、読むだけではなく、子どもたちと実際にやって楽しんでください。シリーズは５巻まで出版されています。



このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみてください。